

第1学年 理数コース 海洋生物観察実習について

8月9日～8月11日の3日間、山口県下関市の水産大学校にて海洋生物観察実習が実施されました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、現地での実習が実施可能か直前まで分からない状況でしたが、水産大学校の先生方をはじめ、多くの方のご協力により、理数コース40名全員で現地へ赴き、貴重な体験をさせていただくことができました。



力を合わせて地曳網を引いています



網にかかった生物をバケツに移す作業中

1日目は、水産大学校の前海（吉見湾）に入り、アマモの分布調査、アマモや、アマモ場に生息する生物の採集等を行いました。生徒たちにとってはどれも初めての経験で、難しさを感じることも多かったようです。特に小型地曳網を使った生物の採集では、想像以上に網が重いことや、クラゲがいる中での作業に戸惑いながらも、水産大学校の先生方や学生の方のご指導のおかげでたくさんの種類・数の生物を採集することができ、実際に海に入ることでは経験できない苦労や楽しさを味わうことができました。

2日目は、1日目に海で採集した生物の観察、スケッチ、同定を行いました。アマモについては、1日目の測定データをもとに水平分布図を作成し、どのような場所に生育しやすいのか考察しました。また、葉や根の特徴、規則性をじっくりと観察していく中で、アマモの体のつくりが海の中で生育するのに適したものとなっていることを知り、多くの生徒がその奥深さに魅了されたようです。

アマモ場に生息する生物については、よく観察し、特徴を確認しながらフローチャートや図鑑を使って同定作業を行いました。生徒たちは生物の種類の多さや特徴の細かさ、専門用語の難しさなどに苦戦し、なかには一つの種の同定に1時間半もの時間を費やすこともありましたが、先生方や学生の方に積極的に質問しながら時間を忘れて楽しく活動している様子でした。

3日目は、これまでの調査についてまとめ、発表を行いました。見やすく、分かりやすい資料の作り方はもちろんのこと、考察に客観性をもたせる方法（文献調査など）、考えを言語化することなど、今後の研究活動に生かせることをたくさん学ぶことができました。



アマモをスケッチしています



フグの同定に挑戦中！

生徒の感想文より（一部抜粋）

- ・今回の実習では、今まで知らなかったことを新しく知れたり、考えをもてるようになったりと、学べたことがとても多く有意義な時間を過ごせて楽しかったです。
- ・私は、先生の「研究をするために、生き物の命を奪った。だから決して軽く扱ってはいけない。」という言葉が印象に残りました。命を犠牲にしてしまった分、何か得ることができるように努力できた気がします。